

第 6 学年国語科学習指導案

児童 6 年 1 組 男 15 名 女 21 名 計 36 名
指導者 紀 瑞 子

聞き合うことで考えが深まるよさを感じながら、自分の考えを確かにするために交流し合う学習活動の工夫

1 単元名 自分の考えを明確にして伝えよう～盛岡からの平和宣言～（学習材名「平和のとりでを築く」他）

2 単元について

(1) 児童の実態

児童は、これまでに「生き物はつながりの中で」で文章の要旨をとらえ、それに対する自分の考えをまとめ、対話によって交流するという学習をしてきた。その結果、自分なりの考えとその根拠となる事例を取り上げて書きまとめる力がついてきている。しかし、自分の考えとその理由のつながりが十分とは言えない児童も見られる。

「対話」を通して互いの考えを聞き合うことについては、それぞれが考えたことが、どのように共通していたり相違したりしているかなどを明らかにしながら自分の考えを広げる力がついてきている。相手の意図や聞き合う目的を考えながら聞き合った結論をまとめる学習も行ってきた。しかし、相手の発言内容に自分の経験や知識を重ねて考えを広げたり、目的に応じて観点を変えて対話を進めたりする力はまだ十分ではない。

このことから、本単元においては、「平和」についての意見文を書くという言語活動を位置づけ、その目的に応じて学習材や複数の資料を読み、それらに対する互いの考えを聞き合いながら、考えの中心を明確にする力をつけていきたいと考えた。

(2) 主たる指導事項と学習材

本単元の読むことの主たる指導事項は、「目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読んだりすること」である。本単元では、「自分の知識や経験、考えなどと関連付けながら、自分の立場から書かれている意見についてどのように考えるか意識して読むこと」が指導の中心である。書くことの主たる指導事項は、「自分の考えを明確に表現するため、文章全体の構成の効果を考えること」である。

このような力を育てるために、学習材として「平和のとりでを築く」を用いる。「平和のとりでを築く」は、原子爆弾によって「傷だらけ」となった物産陳列館が、多くの人々の平和を願う心によって世界遺産「原爆ドーム」となった経緯を述べた文章である。具体的事例が時間の流れにそって取り上げられており、原爆ドームを示す叙述の変化や文末表現に着目するとともに、引用されているユネスコ憲章前文の意味を考えることで要旨に迫ることができる。また、原爆ドームが「世界」の「遺産」となった理由についての筆者の考えを読み取ることにより、いかに多くの人々が平和を望んでいるかに気付くことができる学習材である。

この学習材を通して、児童は「平和」を自分の問題として考え、具体的にどうすることが「人の心の中に平和のとりでを築くこと」になるのかを追究していく大切さを感じ取るであろう。そして、児童がそれぞれ「平和」に関連してもっと知りたくなったことを調べて感じたことを聞き合うことにより、平和な未来の実現のために自分は何を大事にするべきか、という「平和」に対する考えを明確にすることができる。と考える。

(3) 指導に当たって

指導に当たっては、次のように進めたい。

単元のみとおす段階では、単元のゴールとして意見文を書くという言語活動を位置付け、児童が見通しをもって学習に取り組めるようにする。具体的には、広島市の小学 6 年生が発信した「平和への誓い 2010」を VTR で見せ、「平和」について考え発信する意義や目的意識をもたせ、そのためにもっと世界の実情や過去の戦争について知ろうとする意欲を喚起させたい。

ふかめる段階では、その第一歩として「平和のとりでを築く」を位置づけ、筆者の伝えたいことを読み取らせていくようにする。同時に、社会科の歴史学習や道徳副読本の資料、新聞記事、本、インターネットなどで「平和」に関する様々な資料を収集させ、そのことから感じたことや考えたことを書きためていく。そこで、調べたことを紹介し、それらについて感じたことや考えたことを伝え合う、「平和」をめぐる聞き合いを位置付け、事実や資料をもとにした自分の考えが相手を共感させるものか、あるいは自分とは異なる見方や考え方ができるのか学びながら、戦争や平和について様々な視点から考える場とした。さらに、「戦争は人の心の中で生まれる」ということについて自分たちの生活の中から具体例を挙げながら互いの考えを聞き合い、自分の考えの中心を明確にすることができるようにしたい。

まとめる段階では、いくつかのモデルを提示して意見文に必要な構成要素をとらえさせ、自分の考えが読み手に伝わるように文章構成を考えながら意見文を書かせる。「盛岡からの平和宣言」としてまとめて発信し、未来を平和に導いていく思いを確かにさせたい。

3 単元の目標

(1) 国語への関心・意欲・態度

- ・「平和」について関心をもって読もうとする。
- ・聞き合うことで考えが深まるよさを感じながら、聞き合おうとする。

(2) 読むこと

- ・「平和」に対する筆者の考えや意図をとらえ、自分の考えを明確にしながらか読むことができる。
- ・「平和」について自分の考えを發表し合い、考えを深めたり広げたりすることができる。

(3) 書くこと

- ・自分の考えを明確に表現するために、効果的な文章の組み立てを考えることができる。

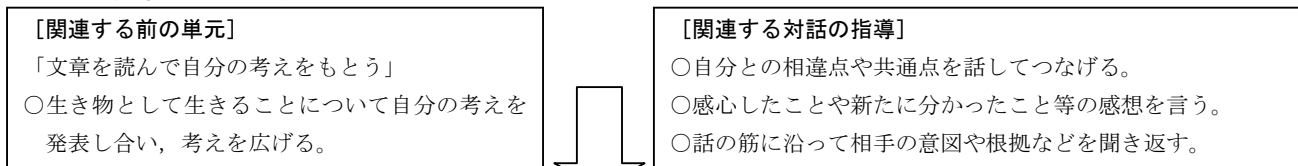
(4) 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

- ・文や文章にはいろいろな構成があることについて理解することができる。

4 単元の評価規準

ア 国語への関心・意欲・態度	イ 読む能力	ウ 書く能力	エ 言語に対する知識・理解・技能
①「平和」について関心をもって読もうとしている。 ②考えが深まるよさを感じながら聞き合っている。	①原爆ドームが世界遺産になった理由やユネスコ憲章前文の意味について、自分の考えを明確にしながらか読んでいる。 ②「平和」についての自分の考えをまとめて發表している。	①中心となる自分の考えを位置付ける箇所を工夫し、読み手がよく理解できるように文章を構成している。	①意見を述べる文章の構成について理解している。

5 学習指導計画（14時間扱い）



段階	学習課題	学習活動と時間	評価規準（方法）
みとおす	○「平和」について考えるための学習計画を立てよう。	・「平和」について考える大切さに気づき、自分の考えを意見文としてまとめる学習の見通しをもつ。 (2)	アー①「平和」について知っていることを話したり、自分の考えを発信したりすることに意欲をもっている。(発言・ノート)
ふかめる	○筆者の伝えたいことに対する自分の考えをまとめよう。	・「平和のとりにてを築く」を読み、原爆ドームが世界遺産となった理由を読み取る。 ・ユネスコ憲章前文を引用した筆者の意図を考えながら要旨をとらえる。 ・「戦争は人の心の中で生まれる」という意味を自分の生活につなげて考える。 (5)	イー①「平和」に対する筆者の考えや意図をとらえ、自分の考えを明確にしながらか読んでいる。 (発言・ノート)
	○調べたことや考えたことを聞き合い、「平和」についての考えを確かになしよう。	・「平和」に関連して調べたことと、それらから考えたことを聞き合う。 ・「戦争は人の心の中で生まれる」ことについて互いの考えを聞き合い、自分の考えの中心をはっきりさせる。 (1) 本時	アー②戦争や平和についての考えが深まっていくことを感じながら聞き合っている。(聞き合いの様子・ふり返り) イー②「平和」についての自分の考えを話している。(聞き合い)
まとめる	○意見文の構成を考えよう。	・4つの投書を読み比べ、自分の考えを明確に述べるための意見文の構成要素をとらえる。 (2)	エー①意見文の構成について理解している。 (発言・ノート)
	○自分の考えが読み手に伝わるように意見文を書こう。	・考えの根拠となった事実や資料を比べたり関連づけたりしながら意見文の全体構成を決める。(1) ・自分の考えが読み手に伝わるように考えながら意見文を書く。 (2)	ウー①自分の考えが明確に伝わるように、考えの中心を位置付ける箇所を考えて文章を構成し、意見文を書いている。 (意見文)
	○「盛岡からの平和宣言」をまとめよう。	・意見文を読み合い、「盛岡からの平和宣言」としてまとめる。 ・単元を通して学んだことをふり返る。 (1)	アー①互いの意見文を読み合い、「平和」に対する思いを確かになしている。 (ノート・発言)

【生かす単元】「学習したことを生かして」
○自分の考えを広げたり深めたりするために、必要な図書資料を選んで読む。
○優れた叙述を味わいながらか読み、自分の考えや感想をもつ。

6 本時の指導

(1) ねらい

- ・戦争や平和についての考えが深まっていくことを感じながら聞き合うことができる。
[対話の情意的要素]
- ・「平和」に関連して調べたことや「戦争は人の心の中で生まれる」ことについて互いの考えを聞き合い、自分の考えの中心を明確にすることができる。[「読むこと」の能力]

(2) 展開

段階	学習活動 (○主発問)	時間 (分)	◇学習内容	教師のかかわり ☆評価 (方法)
みとおす	1 学習課題を確認する。 調べたことや考えたことを聞き合い、「平和」についての考えを確かにしよう。	5	◇聞き合いの目的と手順を確かめること	・聞き合いの2つの柱のねらいを確認し「平和」についての考えを確かにするのが目標であることをおさえる。
ふかめる	2 柱①「平和」に関連して調べたこととそれらから考えたことを聞き合う。 ○友達が調べたことや考えを聞いて、そこから感じたこと、考えたことをたくさん話しましょう。	15	◇互いに調べたことや考えたことを聞き合って、戦争や平和について様々な視点から考えること ・～さんの考えを聞いて私も○○だと思います。それに、◎◎ということも感じました。 ・私は□□のことは知りませんでしたが、～さんの考えを聞いて▽▽と思いました。 ・△△のことについてももう少し詳しく教えてください。	・自分の考えの根拠とした資料について説明したり実際に提示したりして、聞き手が自分の考えに共感できるように話させる。 ・友達の考えや根拠とした資料について質問したり、話を聞いて分かったことや考えたことを話したりするようにさせる。
	3 柱②「戦争は人の心の中で生まれる」ことの意味について聞き合う。 ○自分たちの生活の中で、どんなことが「戦争の種」となるのか、自分の考えと比べながら聞き合ひましょう。	10	◇「戦争の種」となる気持ちが生まれると思う事例とその理由について聞き合うこと ・～さんは、○○という気持ちになるときに「戦争の種」が感じられるのですね。 ・私も、○○ということはあると思います。(という経験があります。) ・どうして○○が戦争へとつながると考えたのですか。	・相手が考えた事例について確かめたり質問したりすることによって、考えと根拠の関係が明らかになるようにする。 ☆友達の考えや根拠を聞き返したり、それについて考えたことを話したりしているか。(観察) [努力を要する児童への手立て] 相手の根拠としている事例について感想を話すように促す。
	4 「平和」についての考えを書く。 ○聞き合いで考えたことをふり返りながら、自分は何を大事にしていきたいか考えを書きましょう。	10	◇聞き合いで考えたことをふり返りながら、平和な未来の実現のために自分が大事にしたいことを明確にして書きまとめること	☆「平和」についての自分の考えを書いているか。(ノート) [努力を要する児童への手立て] 聞き合いの中で、戦争へとつながると思った事例について考えるように促す。
まとめる	3 学習のまとめをする。 ○「平和」についての考えを発表しましょう。	5	◇「平和」についての自分の考えを確かにかにすること	・聞き合いによって考えが確かになったことを確かめ、意見文にまとめることへの意欲をもたせる。